

国際理解教育/開発教育 学習指導案

【実践者】

授業者氏名	仲田 志穂	学校名	宇都宮市立岡本北小学校
教科・領域	総合・社会・国語・外国語	対象学年（人数）	4年生（58名）
実践期間（時数）	2020年7月～10月（30時間）		

【実施概要】

1. 単元名：われら環境調査隊					
2. 実践する教科・領域 総合的な学習の時間 16時間 社会 7時間 国語 6時間 外国語 1時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標 身近な環境問題やその背景，家庭や地域での取り組みなどを調べる活動を通して，多様な環境問題は自分たちの生活と深いかかわりがあることを理解し，環境問題を自分事として捉えて課題解決に取り組むとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。（総合的な学習の時間を中心とする目標）					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	多様な環境問題は自分たちの生活とも深いかかわりがあることや，環境保全のために様々な取り組みが行われており，そのために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	身近な環境問題やエコ活動に関心をもち，環境問題を自分の問題として捉え，必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに，調べたことを分かりやすくまとめたり，相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている			
	③学びに向かう力，人間性等	友達と協力して課題解決や実践に取り組むとともに，環境保全のために自分のできることに取り組むことを通して，自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。			
6. 単元観	<p>【単元設定の理由と意義】</p> <p>現代社会において，様々な環境問題や「エコ」という言葉は，児童にとっても身近な話題である。また4年生の社会科の学習においても，水やごみを題材として，自分たちの生活と環境の関わりについて学ぶ。しかし実生活での児童は，環境問題を自分の生活と関連付けて考えたり，環境問題解決のためという実感を伴ってエコ活動に取り組んだりしているとは言い難い。そこで，身近な環境問題やその背景，家庭や地域での取り組みなどを調べる活動を行うことで，身近な環境への関心を高め，環境を守るために自分の生活を見つめ直すとともに，環境に配慮した生活を目指そうとする意欲や実践的態度を養いたい。</p> <p>【児童観】</p> <p>本学級の児童は，様々なことに興味・関心をもち積極的に取り組むことができ，一人一人がとても個性豊かである。一方で，興味・関心を持続させ，根気強く学ぶ姿勢が乏しい児童もいる。社会科の「わたしたちのくらしと水」の学習では，世界には家族のために水汲みに行くことで，学校に通えない子どもたちがいることを知った。また，自分たちの毎日の食事は，海外の食材に支えられていることを知り，バーチャルウォーターについても学んでいる。「今</p>				

日の給食にはどのくらいの水が使われているのだろう」と疑問をもつ児童もおり、自分たちの生活と世界とのつながりを、少しずつ感じることができるようになってきている。本単元においても、児童にとって身近なアイスクリームやスナック菓子等の食品、洋服や文房具等の日用品等を切り口に、それらのものが日本を含めた世界の環境問題につながっていることに気付かせる等、児童が環境問題を身近に感じ、自分事として捉え、実生活に生かしていけるような授業づくりに努めたい。

【指導観】

総合的な学習の時間「われら環境調査隊」を軸に、社会科「そのごみはどこへいくの?」、国語科「みんなで新聞をつくろう」、外国語活動「What do you want?」の単元との関連を図り、教科横断的に学習を進めていく。社会科では、ごみの分別や、ごみ処理の仕方とその工夫について学び、ごみを減らすために自分にできることを考え、実践する。総合的な学習の時間では、社会科の学習を発展させ、自分たちが毎日出しているごみと様々な環境問題との関連について考える。本単元ではごみと関連する環境問題として、海洋汚染、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働を取り上げる。それらの中から自分が一番解決したい問題を選んで課題を立て、調べ学習を通して学びを深めていく。その後、国語科において「読み手に関心をもってもらえるような新聞を作る」ことを目的に、調べたことや自分たちにできることを新聞にまとめ、家族や友達、他学年の児童に発信する。相手が環境問題を自分事として捉えてくれるような新聞を意識させることで、相手に工夫して伝える力を育てていきたい。また、外国語活動では「フードマイレージが一番高いメニューを知るために模擬買い物を行う」という言語活動を設定し、食と環境問題とのつながりを知る。単元の終末では、「4年2組地球サミット」を開催する。児童一人一人の学びや実践を振り返ったり、環境問題を解決するために、できる限り多くの人にとって持続可能なエコ活動について考えさせることで、自分たちの意志で、学びを生活に生かしていこうとする態度を育てたい。自分たちのこれまでの活動とSDGsとのつながりを捉えさせることで、SDGsが児童一人一人にとって、自分事になるような展開の工夫をしたい。

7. 単元計画 (全30時間)

時	ねらい	学習活動	資料など
1	身近なものが環境問題につながっていることに気付く。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある、省エネ家電を知る。 ※プログラミング教育との関連を図る。 知っている環境問題を出し合う。 自分たちの身近な生活と、環境問題とのつながりを考える。 100年後の天気予報を見て、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省「2100年未来の天気予報 https://ondankatai.saku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/
2	SDGsについて知る。 (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関する動画を視聴する。 SDGs すぐろくをする。 興味のあるSDGsを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴー・ゴールズすぐろくでSDGsを学ぼう(国際連合広報センター) 動画“World’s Largest Lesson Part1 (Japanesewith subtitles)” https://www.youtube.com/watch?v=H0yxJzzIFo8 動画“What’s SDGs?” https://www.youtube.com/watch?v=QyDqENGI6g0

3	宇都宮市のごみの量や収集の様子について話し合い、学習問題を立てる。 (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみにはどのようなものがあるか考える。 ・宇都宮市のごみの量と人口のグラフ、分別収集の様子から、気付いたことや疑問点を話し合い、学習問題をつくる。 	
4	宇都宮市のごみの処理の仕方について調べ、まとめる。 (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域のごみステーションの写真から、気付いたことを出し合う。 ・「ごみの分別をするのはなぜか」、「ごみの種類によって集める曜日が違うのはなぜか」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域のごみステーションの写真 ・家庭系ごみの出し方(5種13分別)(宇都宮市公式サイト)
5 ～ 7	周りの市や町と協力して計画的にごみ処理をしていることについてまとめ、資源の節約や有効利用の大切さについて考える。 (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ① 燃えるごみのゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地の問題について考える。 ・燃えるごみの再利用について知る。 ① びん・かん・ペットボトルのゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ・どのように処理されているのかを知る。 ・機械と人の両方で処理をしている理由について考える。 ・再利用について知る。 ② 紙・布・プラスチックのゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ・どのように処理されているのかを知る。 ・機械と人の両方で処理をしている理由について考える。 ・再利用について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科補助教材「わたしたちのくらしとごみ」(宇都宮市)
8	ごみを減らす取り組みについて知り、人々がごみの減量に協力して取り組んでいることが分かる。 (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rについて知る。 ・「リサイクルステーション」や「もったいない残しま10!運動」等、宇都宮市の取組について関心のあるものをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科補助教材「わたしたちのくらしとごみ」(宇都宮市)
9	自分にできるエコ活動①に取り組む。 (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間を利用し、自分にできるエコ活動に取り組む、エコポイントをためる。 ・夏休み開けに、お互いのエコ活動を伝え合う。 	
10	ごみが様々な環境問題につながっていることに気付く。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関連する写真や図を矢印や言葉で結びつける活動を通して、海洋汚染、フードロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働との関わりを知る。 ・自分が一番「何とかしたい!」と思った環境問題を選び、これから更に詳しく調べたいことについてまとめる。 	
11	買い物ゲームを通して、フードマイレージが一番高いメニューを予想する。 (外国語活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬買い物をするために必要な語彙や表現を復習する。 What do you want? / I want～. How many? / ～, please. ・模擬買い物をし、下記のメニューのうち、一番フードマイレージが高いメニューを予想する。 (シーフードトマトスパゲッティ、チキンカレー、ミックスフライ定食、ハンバーグ定食、五目ラーメン、ねぎとろ丼、焼きそば定食、けんちん汁とごはん) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードマイレージどこからくるの? 私たちの食べ物(開発教育協会)
12	課題を設定する。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみと環境問題とのつながりを整理する。 ・環境問題について調べたことや、自分たちにできることを新聞にまとめ、家族や友達、他学年の児童へ発信するというゴールを知る。 ・自分が一番「何とかしたい!」と思った環境問題について、くわしく調べたいことを決め、調べ学習の計画を立てる。 	

13 ～ 17	調べ学習をする。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍、インターネット、アンケート調査等を通して、自分が立てた課題を追究し、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球教室(朝日新聞環境教育プロジェクト) ・市立図書館や校内図書館の書籍 ・mundi(2015年8月号)「森から世界を変える」 ・mundi(2016年1月号)「食卓から世界を旅する」 ・mundi(2019年8月号)「地球の未来のために」 ・mundi(2018年5月号)「廃棄物管理“ごみ”に挑む」
18 ～ 19	読み手に分かりやすく、興味をもって読んでもらう新聞の工夫について考え、下書きをする。 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手に分かりやすく、興味をもって読んでもらう工夫について考える。(見出し、写真、文章の構成を工夫する等) ・これまで調べ学習で集めてきた資料をもとに、わりつけを考え、下書きをする。 	
20	友達とアドバイスをし合いながら、読み手が「自分事」として捉えてくれるような新聞の書き方について考える。 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な見出し、写真、文の構成について、みんなで考える。 ・それぞれの課題(海のプラスチック、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働)ごとに分かれて、読み手が「自分事」として捉えてくれるような新聞になるように、アドバイスをし合う。 ・友達の新聞のよかったところを伝え合う。 	
21 ～ 23	アドバイスをもとに、下書き・清書を仕上げる。 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもとに、下書きを仕上げる。 ・下書きをもとに清書をする。 ・違うチームの人たちに、新聞を紹介する。 	
24 ～ 25	調べたことや、自分にできることを家族や友達、全校児童に発信する。 ※授業参観で保護者へ発信する。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した新聞をもとに、これまで調べてきた環境問題や、自分たちにできることを家族や友達に伝える。 ・完成した新聞は掲示し、他学年の児童にも見てもらえるようにする。 	
26	自分にできるエコ活動②に取り組む。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びをふまえ、自分にできるエコ活動を考えて実践し、記録しておく。 	
27 ～ 28	「4年2組地球サミット」の準備をする。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球サミットについて知る。 ・各チームでこれまれの学びや実践を振り返り、学級みんなが取り組むことができるエコ活動を考える。 	
29 ～ 30 10/2 本時	「4年2組地球サミット」を開く。 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・4年2組地球サミットを行う。 ・それぞれのチームの提案と、SDGsとの関連について考える。 ・本単元の学習を振り返る。 	

8. 本時の展開 (概略)			
本時のねらい：環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、自分なりの意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点	教材
導入 (5分)	1 地球サミットについて知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">環境問題の解決のために、自分たちにできることを考えよう。</div>	・これまでの学習を振り返ったり、実際の地球サミットの写真を見せたりすることで、意欲付けを図る。	パワーポイント
展開 (40分)	2 4年2組地球サミットを行う。 ① 各チーム(海のプラスチック、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働)ごとに、問題の解決に向けての提案を発表する。 ② 各提案について、質問や意見を述べる。 ③ 提案をよりよいものにし、できる限り全員が実現可能な内容になるように話し合う。 (予想される児童の反応) ・食品ロスチームの提案で、食べ残しをしまう理由として、時間がないから、嫌いな物だから、おなかいっぱいになってしまうからという話がありました。「時間がないから」という理由を解決するために、給食の準備時間の目標を決めて、できるだけ食べる時間を長くとれるようにするのはどうでしょうか。 ④ 話し合いをまとめる。	・提案を述べるときには理由(背景にある環境問題)についても伝えるように促すことで、エコ活動の意欲付けを図る。 ・誰もが無理なく続けられる取り組みを全員で話し合う場を設定することで、具体的な実践につなげられるようにする。	ワークシート 8-1
(35分)	3 それぞれのチームの提案とSDGsとの関連について考える。(個人→ペア) ① 各チームの提案は、どのSDGsの目標とつながるでしょうか。 (予想される児童の反応) ・海のプラスチック (ゴール6, 12, 14, 17) ・食品ロス (ゴール2, 10, 12) ・地球温暖化 (ゴール7, 11, 12, 13, 14) ・森林破壊 (ゴール12, 15, 17) ・児童労働 (ゴール1, 2, 4, 5, 8, 10, 12)	・SDGsとの関連について考える前に、SDGsの内容について復習をすることで、全ての項目を理解した上で、活動に取り組むことができるようにする。 ・SDGsお助けシートを用いて、難しい言葉の理解を促す。 ・SDGsと各チームの提案とを関連させることで、SDGsを自分事として捉えらえるようにすると共に、自分たちが考えた環境問題解決のための取り組みと、世界で解決しなければならない問題はつながっていることに気付かせる。	ワークシート 8-2 SDGsお助けシート SDGsのロゴ

	<p>② これらのSDGsと関連づけたのはなぜですか。(個人→ペア→全体) (予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のプラスチックチームの提案は、ゴール14,17とつながっている。海はつながっているから、世界中のみんなと協力しないと解決できないから。 ・食品ロスチームの提案は、ゴール2,4,12とつながっている。世界には日本のように食料をたくさん捨てている国もあれば、食料が足りなくて困っている国もあるから。みんなが食べ残しをしない工夫をすれば、食品ロスもなくなると思うから。 ・地球温暖化チームの提案は、ゴール7,13,15とつながっている。地球温暖化を防ぐために、クリーンなエネルギーについて考えていかなければならないし、地球温暖化が進んで異常気象が起きると、森林火災等にもつながってしまうから。 ・森林破壊チームの提案は、12,15につながっている。私たちが毎日使っている文房具や家具、紙などはほかの国の木を使ってできているから、それらのものを大切に、森林を大切にしていかなければならないと思うから。 ・児童労働チームの提案は、1,4,5につながっている。お金がないと子どもも働かなければならなくて、教育を受けられなくなってしまうから。世界では女の子の方が教育を受けられていないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びや、各チームの提案がSDGsにつながっていたことに気付かせることで、実感を伴わせながら、SDGsを理解できるようにする。 ・一つのチームの提案には、いくつかのSDGsが関連していることに気付かせ、一つのチームの提案に取り組むことが、様々な問題の解決にもつながることを理解できるようにする。 ・児童の発表に合わせて、黒板の各チームの提案が書かれているところの近くに、関連するSDGsのロゴを貼り、視覚的な理解を促す。 	
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 本単元の学習を振り返る。</p> <p>○今日の話合いや、これまでの学習で学んだことや感じたこと、これからの生活に生かしていきたいと思うことを書いて、伝え合いましょう。 (予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の話合いで、環境問題について自分たちができることを、みんなで考えることができよかった。自分にできることをやっていきたい。 ・給食の残食を減らすために、みんなで協力してがんばりたい。 ・ごみという一つの問題が、色々な環境問題につながっていることが分かった。 ・一つの問題を解決することが、他の問題を解決することにもつながることが分かった。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で振り返る時間と、お互いに伝え合う時間を十分にとることで、学びを自分たちの生活に生かしていけるようにする。 	<p>ワークシート 8-3</p>

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【おおむね満足できる状況】

環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、自分なりの意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとしている。

【十分満足できる状況】

環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、各チームの提案をよりよくしていくために積極的に意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとしている。

【おおむね満足できる状況に達していない児童生徒への手立て】

近くの人との話し合いの時間を設けて自分なりの意見をもてるようにしたり、発言の意図を補ったりしながら、話し合いに参加できるようにする。（行動観察，ワークシート）

10. 学習方法および外部との連携

- ・話し合いの隊形(コの字型)で、学習を進める。
- ・個々が設定した自分が一番解決したい環境問題(海のプラスチック・食品ロス・地球温暖化・森林破壊・児童労働)ごとに、近くの席にまとまって座り、提案や提案に対する質問の受け答えを協力して行えるようにする。
- ・国語科の話し合い活動での学びを生かし、話し合いの手順を視覚的に示しておくことで、順序に沿って児童の力で話し合いを進めていけるようにする。
- ・関連するSDGsが子どもたちだけの力で出なかった場合は、教師の声掛けで、子どもたちの気付きを促せるようにする。(例：児童労働と教育とのつながりに気付かせたい場合→「日中も働くということは、学校に行けているのかな？社会の時間に見た、水汲みをしていた女の子は、学校に行けていたかな？」等)
- ・SDGsの目標の内容の理解を促すために、SDGsのターゲットを児童が分かるような語彙に書き換えた「SDGsお助けシート」を活用する。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・校内の先生方に、授業実践を参観してもらい、授業に関するアドバイスを頂く。
- ・学習の様子や使用した教材を、廊下など多くの人の目の留まる場所に掲示する。
- ・作成した新聞を、授業参観において保護者へ発信する。また、廊下に掲示し、他学年の児童も見ることができるようになる。
- ・本単元で使用した教材を、学校全体の共有フォルダに保管し、次年度の4年生も活用可能な状態にしておく。
- ・各月の国際デーと関連させた内容、それに関連するSDGs(今月のSDGs)の掲示を行う。

【自己評価】

12. 苦労した点	※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。
13. 改善点	※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。
14. 成果が出た点	
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。
16. 授業者による自由記述	

参考資料：

- ・国立教育政策研究所(2020)「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間
- ・株式会社PHP研究所(2020)「ごみから考えるSDGs 未来を変えるために、何ができる？」
- ・開発教育協会(2016)「フードマイレージどこからくる？私たちの食べ物ー」
- ・SDGs CLUB 日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>